

- 問1 現在の十円硬貨にもデザインされている、京都府宇治市に位置する平安時代の建築物の特徴を正しく説明したものはどれか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 二重の屋根を持つ金堂や五重塔が配置され、飛鳥時代の様式を伝える世界最古の木造建築物として知られる。 | 2. 漆塗りの上に金箔を貼り巡らせた三層の楼閣建築で、庭園には全国の守護大名から献上された石が配置されている。 | 3. 急な斜面に突き出すように建てられた「舞台造」が特徴で、重厚な瓦屋根と巨大な柱で支えられている。 | 4. 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。 |
|--|---|--|---|
- 問2 平安時代末期、武士として初めて太政官の最高官職に就任し、一族の全盛期を築いた人物は誰ですか。 (2024年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|---------|
| 1. 平清盛 | 2. 源頼朝 | 3. 足利尊氏 | 4. 藤原道長 |
|--------|--------|---------|---------|
- 問3 794年に現在の京都府京都市に遷都が行われた際の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 源頼朝が、武家政治を始めるために鎌倉に拠点を置いた。 | 2. 桓武天皇が、律令政治を立て直すために平安京へ遷都した。 | 3. 聖武天皇が、仏教の力で国を守るために平城京へ遷都した。 | 4. 桓武天皇が、平城京の次にわずかな期間だけ長岡京を都とした。 |
|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
- 問4 平安時代に、それまでの大陸的な文化から日本独自の特徴を持った「国風文化」へと変化していった主な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 鎖国政策が実施されたことで、長崎の出島のみを通じて海外の限られた情報が入るようになったため | 2. 鉄砲の伝来により、戦国大名が自らの権力を示すために豪華な城郭を築くようになったため | 3. 遣唐使が停止され、中国の文化を直接取り入れる機会が減った一方で、日本の風土への関心が高まったため | 4. 源頼朝が鎌倉に幕府を開き、質実剛健を尊ぶ武士の気風が社会全体に広まったため |
|--|--|---|--|
- 問5 平安時代末期、現在の岩手県平泉町を拠点に栄えた奥州藤原氏は、北上川流域などで産出されるある鉱産資源を背景に、京都の文化とも異なる独自の仏教文化を築きました。中尊寺金色堂などの豪華な建築物にも象徴され、当時の重要な輸出品でもあったこの鉱産資源は何ですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 金 | 2. 銅 | 3. 鉄 | 4. 銀 |
|------|------|------|------|
- 問6 藤原氏が摂政や関白の役職を独占し、長期間にわたって政治の実権を握ることができた背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 自分の娘を天皇の后とし、その子供を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として権力を持った。 | 2. 国司として派遣された先で徴収した税を私物化し、その圧倒的な経済力で朝廷内の官職を買い取った。 | 3. 地方の有力な武士と結びつき、軍事力を背景に天皇を圧迫して重要な役職を認めさせた。 | 4. 遣唐使として中国の進んだ法制度を学び、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を一人で完成させた。 |
|--|---|---|--|
- 問7 9世紀末に菅原道真の建議によって遣唐使の派遣が停止されると、それまで取り入れてきた大陸の文化を日本の風土や生活感覚に合わせて消化・吸収する動きが強まりました。このような背景から、10世紀から11世紀にかけて貴族を中心に発達した、日本独自の文化を何と呼びますか。 (2019年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|------------|
| 1. 国風文化 | 2. 鎌倉文化 | 3. 天平文化 | 4. 弘仁・貞観文化 |
|---------|---------|---------|------------|
- 問8 平安時代中期、藤原氏は自分の娘を天皇の后（きさき）にすることで、生まれた子（次の天皇）の母方の親戚として政治の実権を握りました。このような立場を利用して、天皇が幼少のときには摂政、成人した後には関白となって政治を行う仕組みを何といいますか。 (2024年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|-------|---------|
| 1. 武家政治 | 2. 執権政治 | 3. 院政 | 4. 摂関政治 |
|---------|---------|-------|---------|
- 問9 9世紀末に遣唐使の派遣が停止された当時の東アジア情勢と、その後の日本への影響について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、中国大陆の沿岸部から博多付近へと至る海上ルートでは、公式な使節以外による活動が行われていたことを考慮して答えなさい。 (2023年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 唐へ留学していた僧侶の阿倍仲麻呂が帰国し、最新の仏教文化を伝えたことで、奈良の貴族文化が全盛期を迎えた。 | 2. 航海技術が未熟で遭難が相次いだため、商人の船も含めて海外との一切の交流が禁止され、完全な鎖国状態となった。 | 3. 唐が衰退して公式な交流の意義が薄れたが、商人による民間貿易は継続され、大陸の物資は日本に流入していた。 | 4. 中国大陆で隋に代わって唐が建国されたため、新しい国交のあり方を検討するために一時的に交流を断絶した。 |
|---|--|--|---|
- 問10 平清盛が推進した日宋貿易は、当時の日本の経済に大きな変化をもたらしました。宋から輸入され、後の日本国内における貨幣経済の普及に決定的な役割を果たしたものは何ですか。 (2022年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-------|------|-------|
| 1. 宋銭（銅銭） | 2. 生糸 | 3. 銀 | 4. 鉄砲 |
|-----------|-------|------|-------|
- 問11 平安時代後期に始まった、天皇が位を譲って退位した後も、その住まいにおいて「上皇」として政治の実権を握る体制を何といいますか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1. 院政 | 2. 幕府政治 | 3. 執権政治 | 4. 摂関政治 |
|-------|---------|---------|---------|
- 問12 藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后に送り込み、三人の天皇の母方の祖父となることで、摂関政治の全盛期を築きました。このように藤原氏が「外戚」という立場を重視した理由として、最も適切な背景はどれですか。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 武士の勢力が台頭しており、軍事力に対抗するために皇室との団結を誇示する必要があったから。 | 2. 仏教の教えに基づき、親族が協力して政治を行うことが理想の国家像であると考えられていたから。 | 3. 当時の政治権力の正当性が、実力や法律よりも、天皇との血縁関係の強さに依存していたから。 | 4. 律令制度によって、摂政や関白の職は必ず天皇の祖父が務めるべきだと厳格に定められていたから。 |
|---|--|--|--|
- 問13 平安時代末期に白河上皇によって始められた「院政」という政治体制の説明として、当時の政治の仕組みの変化をふまえた記述として最も適切なものはどれですか。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 藤原氏が摂政や関白として権力を独占する仕組みを抑えるため、天皇の位を退いた上皇が政治の主導権を握った。 | 2. 坂上田村麻呂が征夷大將軍に任命され、東北地方を平定することで天皇による全国支配を完成させた。 | 3. 天皇の母方の親戚である外戚が、天皇に代わって全ての政務を決定する摂関政治の形式をより強化した。 | 4. 地方で成長した武士が、京都の朝廷から政治権力を完全に奪い、鎌倉に独自の政府を組織した。 |
|--|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 池の中央に建てられた阿弥陀堂を中心とし、左右に翼廊、背後に尾廊を持つ、左右対称の華麗な姿をしている。	平等院鳳凰堂は、阿弥陀如来が住む極楽浄土の宮殿を模して造られました。大きな池の中に島を設け、そこに建物を配置することで、水面に建物が映り込むように設計されています。この左右対称の美しい構造は、当時の貴族が好んだ寝殿造の影響を強く受けており、当時の高度な建築技術と美意識を現代に伝えています。
問2	答え 1 平清盛	平氏のリーダーである平清盛は、武士として初めて律令制度における最高位である太政大臣に任命されました。これにより平氏は政治の主導権を握り、「平氏にあらざるば人にあらず」と言われるほどの権勢を誇るようになりました。
問3	答え 2 桓武天皇が、律令政治を立て直すために平安京へ遷都した。	794年に平安京を築いたのは桓武天皇であり、その目的は乱れた律令政治の立て直しにありました。平城京は710年に現在の奈良市に置かれた都であり、長岡京は平安京の直前の都ですが、794年という年号と合致するのは平安京です。鎌倉は12世紀末に幕府が置かれた場所であり、遷都の背景とは異なります。
問4	答え 3 遣唐使が停止され、中国の文化を直接取り入れる機会が減った一方で、日本の風土への関心が高まったため	9世紀末に遣唐使が停止されたことで、中国（唐）の最新文化を直接輸入する動きが弱まりました。その結果、それまでに蓄積された大陸の技術や思想をベースにしながらも、日本の気候や貴族の生活スタイルに適した「寝殿造（住居）」や「大和絵（絵画）」といった独自の様式が確立されました。
問5	答え 1 金	奥州藤原氏は、領内から産出される豊富な「金」を経済基盤として、平泉に中尊寺や毛越寺などの壮麗な寺院を建立しました。この金は当時の日本における重要な交易品であり、平泉から京都へ送られただけでなく、大陸の宋（中国）への輸出にも使われ、奥州藤原氏の強大な権力と富の源泉となりました。
問6	答え 1 自分の娘を天皇の后とし、その子供を次の天皇に立てることで、天皇の母方の祖父として権力を持った。	藤原氏は一族の娘を天皇のきさき（皇后など）にし、その間に生まれた皇子を次の天皇に即位させる手法をとりました。これにより、天皇の外祖父（母方の祖父）という血縁上の強力な立場を得ることで、摂政や関白といった役職を世襲し、政治の実権を独占し続けることが可能になりました。
問7	答え 1 国風文化	遣唐使の停止によって唐からの直接的な文化流入が減少したことで、それまでに蓄積された大陸の文化が日本の環境や日本人の感性に適應するように作り替えられました。この時期には「かな文字」が普及し、漢字に依存しない日本独自の表現方法が確立されたことが大きな特徴です。
問8	答え 4 摂関政治	藤原氏は、天皇の「外戚（がいせき）」という母方の親戚関係を築くことで権力を世襲しました。藤原道長の時期にその全盛期を迎え、天皇を補佐する摂政や関白の職を独占したことから、この政治体制は摂関政治と呼ばれます。
問9	答え 3 唐が衰退して公式な交流の意義が薄れたが、商人による民間貿易は継続され、大陸の物資は日本に流入していた。	遣唐使の派遣は停止されましたが、それはあくまで国家としての公式な使節の派遣をやめたことを意味します。中国大陸の沿岸部と博多を結ぶルートでは、依然として商人による私貿易が盛んに行われており、唐の文物は日本に届き続けていました。阿倍仲麻呂は奈良時代の人物であり、帰国できずに唐で没したため、選択肢の内容は誤りです。
問10	答え 1 宋銭（銅銭）	日宋貿易を通じて大量の宋銭が日本に流入しました。これにより、それまでの物々交換を中心とした経済から、貨幣を用いた取引へと移行するきっかけが作られました。宋銭は平氏の滅亡後も、鎌倉時代や室町時代に至るまで日本の主要な通貨として流通し続けました。鉄砲の伝来は戦国時代、生糸や銀の大量取引は後の朱印船貿易などで顕著になります。
問11	答え 1 院政	天皇が位を譲り上皇となった後、その住まいである「院」において実権を握り続けた政治を院政と呼びます。それまでの藤原氏を中心とした摂関政治に対し、天皇家が主導権を取り戻す役割を果たしました。
問12	答え 3 当時の政治権力の正当性が、実力や法律よりも、天皇との血縁関係の強さに依存していたから。	摂関政治は、天皇を母方から支えるという血縁関係に基づいた私的な権力構造でした。法律（律令）に明文化された職権以上に、「天皇の祖父や伯父である」という家族的な地位が政治的な発言力の源泉となっていたため、藤原氏は必死に娘を后にし、男子が生まれることを願ったのです。のちに藤原氏を母に持たない後三条天皇が即位したことで、この政治体制は崩壊へと向かいました。
問13	答え 1 藤原氏が摂政や関白として権力を独占する仕組みを抑えるため、天皇の位を退いた上皇が政治の主導権を握った。	院政が始まった背景には、長年続いた藤原氏による摂関政治を打破し、天皇を中心とした皇室自らが政治を執り行う目的がありました。上皇は摂政や関白の役職を介さずに、自身の近臣や独自の軍勢力を背景に政治を運営しました。選択肢にある坂上田村麻呂は平安時代初期の人物であり、院政の時代背景とは異なります。